

平成29年12月26日（火）

第12回定例教育委員会会議録

我孫子市教育委員会

1. 招集日時 平成29年12月26日(火)午後2時00分
2. 招集場所 教育委員会 大会議室
3. 出席委員 教育長 倉部 俊治 委 員 豊島 秀範
委 員 長谷川浩子 委 員 足立 俊弘
委 員 蒲田 知子
4. 欠席委員 な し
5. 出席事務局職員
教育総務部長 小島茂明 生涯学習部長 小林信治
生涯学習部次長兼生涯学習課長兼生涯学習センター長 木下登志子
総務課長 山田和夫 学校教育課長 大島慎一
指導課長兼小中一貫教育推進室長 羽場秀樹
教育研究所長 土山勇人 少年センター長 横山悦子
文化・スポーツ課長兼白樺文学館長兼杉村楚人冠記念館長 鈴木 肇
鳥の博物館長 鈴木順一 図書館長 櫻井 實
生涯学習課主幹兼公民館長 丸山正晃
文化・スポーツ課主幹 小林由紀夫 文化・スポーツ課主幹 辻 史郎
総務課主幹 森田康宏
6. 欠席事務局職員 な し

午後 2 時 0 0 分開会

○倉部教育長 ただいまから平成 2 9 年第 1 2 回定例教育委員会を開会いたします。

これより会議を始めますが、教育委員並びに事務局職員に申し上げます。我孫子市教育委員会会議規則第 1 8 条の規定により、会議で発言する場合は挙手をし、私が指名してから発言をお願いします。また、会議を円滑に進めるため、発言は一問一答でお願いします。

本日の日程に入る前に、平成 2 9 年 1 2 月 2 2 日付で長谷川浩子委員が再任されましたので御紹介いたします。一言御挨拶をお願いいたします。

○長谷川委員 このたび、また 4 年間お世話になることになりました長谷川でございます。地域の皆様の声をなるべく聞くようにして頑張りたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○倉部教育長 ありがとうございます。引き続き、どうぞよろしくをお願いいたします。

会議録署名委員指名

○倉部教育長 日程第 1、我孫子市教育委員会会議規則第 3 1 条の規定により、会議録署名委員を指名します。長谷川委員をお願いします。

諸 報 告

○倉部教育長 日程第 2、諸報告を議題とします。

事前に配付された事務報告、事務進行予定資料等に補足する説明や追加する事項があれば許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 特によろしいですね。ないようですので、これより事務報告に対する質疑の時間とします。質疑があればこれを許します。

○豊島委員 5ページの指導課の「要請訪問等」のところですか。根戸小学校から湖北台中学校まで16回に及ぶ要請訪問があります。たくさんの学校が、このような形で指導主事等に指導を求めるということ、内容のところにありますように「授業展開協議」という形であるのですけれども、私がお聞きしたいのは、一般的に見て、こういう要請訪問があつて、それに応じて指導主事が出かけて行って、そしてこのような内容の協議等を授業に関する協議等を積極的にやるということは、我々教育委員会としては好ましいというふうに判断してよいことなのでしょうか。

○羽場指導課長 お答えします。各学校は年間計画等で研究主任を中心に研究をやっておりますが、その中で指導主事が行く場合も当然ございますし、ほかの講師の方をお呼びしてやることもあります。それから東葛の教育事務所の講師を呼んで行くこともありますけれども、指導主事が入ってやるということによって、学校がどのようなことをやっているかということが我孫子市全体としてもわかりやすくなりますので、呼んでいただいて研究会に参加させていただくということは、学校独自でやるよりも、指導主事等が講師として行くということについては非常に好ましいことだと思います。

○豊島委員 承知しました。私も好ましいと思います。と同時に、根戸小学校の場合には、1番目と14番目の授業展開の理科と道徳でしょうか。ちょっと見落としていたら申しわけないのですけれども。今、2回見ましたけれども、例えばそのほかの科目は、小学校ですからたくさんあるわけですね。一人の教員がたくさんやるわけでありませう。

私がお聞きしたいのは、中学校以降の専門科目と違って、小学校の場合にはこのようにいろいろなものを教えるということは当然なのですから、道

徳の場合は特別ですから、これはまたいろいろありますけれども、一般的に小学校の先生方のそれぞれの指導力を高めていくあり方というのは、こういった指導主事を招いてのこと、それから今いろいろおっしゃっていただきましたけれども、そういう機会もあるでしょう。そのほかにはどういう形でそれぞれの先生方の教授能力というのか、そういうものを上げていく、教育委員会としてあるいは学校として、一般的にでいいのですけれども、どういう努力をふだんはしているのでしょうか。

○羽場指導課長 お答えいたします。先ほども申しましたように、学校のほうで研究主任が年間計画を立てまして、学校の研究主題に従って展開しているものなのですけれども、それ以外に、当然のことながら自主研修という形でやっている方もいらっしゃいます。

それから、ここには出ておりませんが、今、新学習指導要領の関係で、外国語活動ということに対して非常に不安を抱えているところもあるでしょうし、その部分で教育研究校もありますので、今、並木小学校で外国語活動のほうで授業をやってくれていますので、その中で自主的にというか、学校のほうで時間を見つけて見に行っております。あと我孫子市の教育研究会、我教研と言われていますが、その中で自主的な研修という形で、各教科に分かれて研修をやるという形になっています。以上です。

○豊島委員 もう1つだけお願いします。今わざわざ取り上げてお答えいただいているのは、我々は小中学校一貫教育をやっております。これだけでも相当忙しいです。その中に、さらに今おっしゃったように外国語教育が入ってきました。道徳もまたあります。そのような形でいろいろある中で、一人一人の先生方のスキルアップもしなきゃいけない。その場合に、学校だけでやっている場合もあるし、それから今のこのような形もある。今後の学力向上のことを目指してやっていく場合に、結果的には今やっていることを継続していけばよい

のだろうか。この先には先生方の働き過ぎとか何とかという問題があって、いろいろあるのでそこまで今は突っ込みませんが、先生方が授業に対しての学習、授業に対しての準備というものを、皆さんが一生懸命計画してやっていることは承知の上で話しています。今までのことをやりながら、さらに続けていくことで、我々としては満足と、十分だろうというふうに判断してよいのかどうかということが私の心にかかっています。そのことで何かお考えがありましたら教えてください。

○羽場指導課長 お答えいたします。ここに出ているのは研修になっておりますけれども、それ以外に学力向上に向けての協議会というものがございまして、その中で各学校がどのような形で学力向上に向けて取り組んで、もちろん西と東でも違いますし、学校によっても違うわけですが、その中でどういう形で取り組んでいるかということについてお互いに出し合って、それをお互いに共有しながら取り入れていくという形をやっておりますので、そういう学力面ということについても、並行ということが正しいかどうかわかりませんが、行っておりますので、研修会だけでなかなか実力、学力を伸ばすのは難しい部分もありますので、その部分で子供たちに対してどういう働きかけをしてやっていくかということも含めて取り組んでいることもございます。

○豊島委員 その方向を続けていくことで、我孫子市の学校教育としてよいだろうというふうな御判断ですか。

○羽場指導課長 よいだろうというまではなかなか言い切れませんが、そういうものによって、御存じのように4月には全国学力・学習状況調査をやっておりますが、その中での結果であるとか我孫子市の標準学力テストの結果をもとに各学校の考察もしておりますので、そういう結果と指導と評価の一体化が大切になりますので、そのところで指導と評価の一体化を目指しながら、かつ、そのような取り組みを入れていきながらやっていくことによって進んで

いくことはいいことだと思いますので、満足してはいけないとは思いますが、今やっていることについて決して間違いではないと考えております。以上です。

○豊島委員 お答えいただきありがとうございます。一生懸命やっていることは了解しております。これから先、我孫子市の教育に対しては、それぞれの学校の特色に合わせながら、もう一歩切り込んでいかないといけないのではないかなということ、5～6年、教育委員をやらせてもらって学校を見ながら感じているところがあります。やはり西と東も違うし、それぞれの学校を拝見させていただいて内容も違うし、それぞれの学校に合わせた取り組みというのが、まだまだ必要なところがあるのだろうかというふうに思っています。これからもいろいろ教えていただきながら相談させてもらいたいと思います。ありがとうございます。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですか。ほかに事務報告について御質問はありますか。

○蒲田委員 6ページの「県下一斉列車補導」のときのことをお尋ねしたいと思います。この中では電車の中ですとか駅構内ですとか、そういったところで主に高校生の指導になったかと思うのですが、マナーは10年以上前だったとかなり悪かったのですが、今現在は、電車の中ですとか駅構内の様子はどうなっていたのでしょうか。

○横山少年センター長 今、蒲田委員のほうからの質問を受けたことに関して、少年指導員が同じようにこう言っていました。「昔と違うわね」と。ほとんど高校生のマナーの中できちんと乗りおりができておりましたし、今回声かけした人は4人だけでした。その4人の内訳は、湖北駅の改札口で女の子が1人、「どうして遅くなっていたの？」と声かけしたところ、「体調が悪くて、きょうは遅刻になった」と。あと3名については、布佐駅の女生徒2名、男生徒1

名だったのですが、ちょっとおしゃべりをしていたということで指導員さんのほうで声かけをしたら、「これから電車に乗ります」ということでした。大変昔とは違っているなということ少年指導員さんも言うておりました。以上になります。

○倉部教育長 よろしいですか。

○蒲田委員 ありがとうございます。以前ですと、高校の先生が「制服の着方が悪い」と言って駅構内の中で大分強く注意をされたりとか、そういうこともあったのですけれども、服装的にも問題はなかったということでしょうか。

○横山少年センター長 これも高校の先生も入ってくださったのですが、全く問題はありませんでした。

○蒲田委員 ありがとうございます。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○長谷川委員 3ページの指導課の1番目に「我孫子市幼保小連携 第1回オリジナルダンス作成委員会」とあるのですけれども、このオリジナルダンスというものはどういうものでしょうか。

○羽場指導課長 お答えいたします。霜多先生という方がいらっしやいまして、その方がつくったダンスCDがあるのですが、それをもとに幼稚園と保育園、小学校のほうで、希望者のある学校はそのCDを使いまして、休み時間であるとか雨の日であるとか、水泳の日の準備運動ということで、学校の中でダンスをやっていたのですが、それを我孫子市のオリジナルのものにしようということで、来年度の発行に向けて取り組んでいます。その担当になっていただく先生方で、先日、曲を選定いたしまして、それに合わせて霜多先生がダンスの振り付けを考えていただいております。できれば来年4月に出したいのですが、まだはっきりはわからないのですが、その作成に向けてやっております。それを全校に配りまして、それを幼保小で連携というか、その中で使いながら体を

動かすダンスをつくっていこうという形で取り組んでおります。以上です。

○倉部教育長 事務報告についてはいかがでしょうか。

○豊島委員 9ページの「教育研究所における相談の概要」のところの1のaの④です。毎回お伺いしていることではありますけれども、30件、前月26件、その前の年度は22件、ほぼ横ばいなのですけれども、そう簡単に解決できることではありませんが、「子どもの学習のおくれに関すること」の30件、新しいのが4件とありますけれども、これは主訴ですからいろいろなものと関連はしているのだと思いますが、この「子どもの学習のおくれに関すること」という相談をお受けしながら、研究所としてそれに対する対応とか、あるいは問題のありようとか、何かありましたら教えてください。

○土山教育研究所長 学習のおくれにつきまして、11月は新規で4人の方を受けていますが、やはり学習のおくれというのは検査につなげていくのがメインとなります。研究所の相談員のほうで基本的には検査をとりまして、どういふところがこのお子さんは苦手な面があるのかというのが検査である程度のことになってきますので、それをもとにアドバイスをしていくという形につなげております。

○豊島委員 先月からが26人と言ったらいいのか、継続しているのですけれども、その26件と、新規の4件を含めて30ということでしょうかけれども、先月から今月に対して指導等で児童が何か変化したりするということは何かありましたでしょうか。

○土山教育研究所長 この表の説明になるのですが、この26件というのは、研究所がずっと抱えているケース全体の中の26件ということでありまして、この26件の方が11月に必ず相談に来ているというわけではありません。アドバイスをもとに改善ということを、保護者とも相談をしながら進めているところですが、なかなか顕著な例というのは出てきていないところが現状

です。

○豊島委員 難しい問題だということは十分承知しています。ただ、やはり一般の学校の中で指導を必要とする子供たちもいるわけで、その子供たちとこれは無関係ではないわけです。先生の数の問題も今それぞれの現場では問題になっていて、本当にこれは考えていけば大変な問題であって、だからと言ってすぐにどうするということは、難しいからこういう問題を引きずっているわけですが、しかし何かしら少しずつでも突破口みたいなことを考えていくようにしなければ、無尽蔵に教員の数があるわけではないし、こちらのほうにそう回せるわけでもないしということは、今大変だということは私もわかっています。教育研究所のほうでやらなければいけないこと、そう簡単に来ないし、やれないということもあるのでしょうけれども、そのところで何か新しいことを考えながら、さらに工夫してやっていく必要があるのではないかと思います。簡単でないことはわかっていますよ。だけれども、何かやっていかないと大変なことにだんだんなっていくので、何をどうすれば、どの辺をどうすれば解決できるかというふうな、具体的なことはないでしょうけれども、何か思いみたいなものがあったら教えていただきたいです。

○土山教育研究所長 思いといいますか、今現在、それに関して行っていることですが、ここに相談件数とありますけれども、この中には学校から回ってきたアドバイスカースもありますし、また保護者から来るケースもございます。その検査をもとにお話をしていく中で、まず学習のことに关していいますと、ちょっと難しいというお子さんに関しては、通常級ではこういう支援が受けられないから、では支援級に転級という方向性も研究所としてはアドバイスをしております。ただ、それを研究所が決めるわけではありませぬので、学校と保護者の方でよく相談していただいて、そのためにとらせていただいたデータであると考えています。そういう形で今進んでいるせいかどうかよくわからない

のですが、実は支援学級の人数が今のところちょっとふえてきている。来年度もちょっと支援学級がふえるという情報は入っております。

○豊島委員 ちょっと長くなってごめんなさい。子供にとって支援級に入ることとは何も問題なくて、むしろそのほうが望ましいということもわかっています。それと裏腹の面もいろいろありまして、そんなのでしつこく食い下がっているというのはおかしいですけれども、問題にしているわけです。

皆さんの努力を承知の上で、その上でさらに我孫子として独自の方法はそんな簡単にはできない、全国的な問題だということも知っているのですけれども、しかし我々のほうで何かしら工夫する突破口みたいなものがないかと常に模索していくことは必要なので、そのところで何か感じるころはありますかとお聞きしたのですけれども。

○土山教育研究所長 まだ全然スタートしておらずというか、研究をしている段階なのですけれども、「ことばの教室」で活用しているデジタル教材というのがありまして、つい先日、それについての研修をうちの所員が受けました。それは読みの会話に非常に役立つということで、それが通常学級でも活用できるのではないかなというふうには、ちょっと所内で話をしているところです。デジタル教材になりますので、今 i P a d は入ってはいるのですけれども、そのソフトが I O S には今のところ対応していないというのがあるので、アイデアだけでおさまっているところです。読みというのは一番の基本になるところですので、何とかその辺を突破口にできないかなということは考えております。

○豊島委員 本当にすごく気の長くなるような努力を要する大変な問題なのですけれども、それだけにやはり何かしら考えていくということで、今 i P a d の読みの問題を所員も研修を受けているという話を伺いましたけれども、そういうことをさらに進めていく必要があるよというふうに具体的におっしゃっていただければ、我々も共有しながら進めていけるなというふうに思っております。

す。ありがとうございました。

○倉部教育長 今回の件につきましては、やはり簡単に解決できるような課題ではないと思っています。より私たち教育委員が現場を理解して、それについてどれだけの支援ができるかということが、むしろ肝心なことかなと思っています。今、小中一貫教育で各中區に iPad を入れてもらっていますが、実はそのうちの数台ずつを教育研究所のほうに貸与して、いろいろな教材について研究してもらっています。どれだけ有効なものがあるか、その積み重ねを今ちょうどしているところですので、先ほど所長がお話しになったようなことをしっかりとやっていくことによって、現場にも返していける、子供たちにも返していくものがふえていくというところですので、もっともっとその辺の予算的な面とか手立ての面を、できれば総合教育会議等で直接訴えられればいいかなというふうに思いますので、そういう支援をしていきたいなと思っています。ぜひ御理解をいただければと思います。よろしくお願いします。

ほかにありますか。

○蒲田委員 8ページの3番になります。「就学児健康診断行動観察」をされて、「第一次教育相談が必要な児童について助言を行った」とありますが、助言を必要と思った人数は何人だったのでしょうか。

○土山教育研究所長 助言を第一次教育相談へつなげていただければということで、ぜひということをお願いをしたのが89名です。そのほか学校のほうでスクリーニングの先生などが判断して呼ぶ方もいるので、若干ふえてくるのではないかなと思いますが、教育研究所ではこの人数でございます。

○蒲田委員 ありがとうございます。助言を行った際に、保護者の方と教育研究所、学校サイドとの意見の相違があったとか、あるいはその助言に関して受けとめられないなというような保護者の方ほどのくらいいらっしまったのでしょうか。

○土山教育研究所長 この助言に関しては、第一次教育相談というのは学校が行うものですので、学校に対して、このお子さんはちょっと心配なので呼んでみてくださいというアドバイスをしたもので、今とりかかっていると思うのですが、各学校で保護者の方を呼んでお話をしているという時期だと思います。ということで、第一次教育相談の場所には研究所の所員は基本的に入っておりません。

○倉部教育長 このタイミングでは、質問の数は把握できていないということでもよろしいですか。意見の相違とか、そういう段階ではないという。

○土山教育研究所長 申しわけありません。そこまではわかりません。

○蒲田委員 わかった段階で教えていただきたいと思います。どのくらい意見の相違があったとか、受けとめられないということがあったとか、あるいは素直に——素直にというのはおかしいですけれども、積極的にその助言に対してかかわっていこうという保護者の方が、どの程度だったのかということをお尋ねしたいと思います。わかった段階でお願いします。

○倉部教育長 よろしいですか。わかった段階でということをお願いします。

ほかにいかがでしょうか。

○足立委員 私の下の子が今4年生なのですけれども、以前に比べると大分本を読むようになってきて、何とか本を読んでほしいなと思って、あの手この手で読書の習慣をつけさせようと思っているのですが、最近、こんな本を読んでもたらなんて渡して、本を手にとるようになっていたのですけれども、余り押しつけてもいけないし、かといって本屋さんに行くと、いろいろな本があるのですよね。子供向けのアニメ調の漫画になっているような、大人から見ると何かおもしろおかしいだけで、こんなのでいいのかなと思いながら、でも子供が喜ぶしと思って、本を読むのだけれども、どんなふうに読ませたらいいかということで、最近どうしたらいいかななんて思いながら、22ページの図書館の

「講師派遣」のところで、「子どもの本の本当の役割」というすごく興味をそそられるタイトルがあって、どんな内容のお話だったのか、概要だけでもちょっと教えていただきたいのですけれども。

○倉部教育長 櫻井図書館長、わかりますか。

○櫻井図書館長 この11月28日の実践編ということに関しては、私どもの児童担当が出向いて、保護者の方と懇談の形でまず説明をさせていただき、解説させていただいた上で、その後懇談して質疑という形をとっていました。詳細な内容につきましては、報告書は拝見しまして決裁もしているのですが、ここで委員に御説明をするほどの内容をちょっと把握していないので、もしよろしければ、その報告書とレジュメもございますので、後ほどお持ちさせていただくということよろしいですか。

○倉部教育長 奉仕係の補佐がふだんはいるのですけれども、きょうはいないので、また改めてその辺は報告をさせます。

○櫻井図書館長 あわせてなのですけれども、先ほど質問にあったように「どんな本を読ませたらいいの？」というところは、家庭では悩む場面が多いと思います。御存じかもしれませんが、図書館にはブックセレクションという冊子がございます。もちろん絵本もあるので、小学1～2年生用、3～4年生用、5～6年生用と分けて、こんな本がいいよという冊子もございますので、ぜひ図書館に出向いて行って、無料で配布してございますので、そういった冊子を参考にさせていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

○足立委員 ぜひ参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○倉部教育長 そんなに進んでいないのですけれども、今、学校図書室と市の図書館を何とかつなぎたいという思いで教育委員会は動いているのですが、な

かなか予算の関係等もありまして、いま一步のところがあります。ぜひそういうところも教育委員の皆様もちょっと関心を持っていただいて、ちょうどいい機会でご質問いただきましたので、少しでも子供たちが図書に親しめるような環境をもっともつつくっていきたいなと思っていますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

ほかにいかがでしょうか。

○蒲田委員 11ページの成人式についてお尋ねいたします。4番で「成人式リハーサル」、内容として3番目に「決意表明の寄せ書きパネルについて」とありますが、今までとは違うかなと思うのですけれども、どのくらいの大きさのパネルなのかということをお教えしてもらいたいと思います。

○木下生涯学習課長 お答えいたします。「決意表明の寄せ書きパネル」は、初めての試みでして、夢を語っていただいたり、成人として今感じている決意を書いていただくために、180cm×90cmの白いボードを4枚用意します。現段階では、けやきプラザの1階のホールのところパネルを設置して、そこに成人の方に自由に書いていただこうと考えております。

○蒲田委員 ありがとうございます。その後はどちらに掲示するのでしょうか。

○木下生涯学習課長 その後は、まだ掲示するというのも考えておりませんが、掲示することも考えたいと思っています。企画運営委員とその後の対応をどうしようかというような話はしていないのでけれども、どのくらい書き込んでくれるかということも見ながら対応を考えたいと思います。

○蒲田委員 ありがとうございます。せっかく立派なものができるかと思ひますので、どこかで掲示できる、あるいは写真としてホームページに残るだつたりということがあつたら、本当に成人した方々も喜ぶと思ひました。よろしくお願ひいたします。

○倉部教育長 御意見ということでよろしいですね。ほかにいかがでしょうか。

○豊島委員 17ページの文化・スポーツ課の2の「歴史文化財担当」の「主催事業」、白樺サロン、白樺文学館での朗読のひとつとき云々、次のページに行つて(3)(4)と続いて、「共催事業」が2件、旧井上家住宅でのSPレコードコンサート、それから旧井上家住宅の新土蔵での鉄道模型運転会、この一連の主催事業と共催事業を合わせて相当数の新しい催しと、それからかなりの参加者があつて、私は行けなかったのだけれども、これを見ていて楽しいなと思います。これをやってみて、予想以上に集まった場合もあるし、そうでもない場合もあつたりする。会場の広さ・狭さというのがありますから、無理なこととは無理なのですが、それらの主催事業、共催事業を通して、思ったよりもよかつた点、あるいはちょっと課題を残したなという点がありましたら教えてください。

○鈴木文化・スポーツ課長 お答えします。まず17ページの白樺サロンと朗読のひとつときにつきましては、白樺文学館の普及活動の1つとして毎月行っているものです。参加者数については、(1)は12人、(2)は15人ですが、大体15人前後の参加を想定しております。課題としましては、白樺サロンの参加者が年配者の方が多いので、もう少し若年層に参加していただくためにも、ピアノ演奏の楽曲、そういったものを若者向けにする工夫も必要なかと思っています。

続きまして、18ページの旧井上家住宅のレコードコンサートと鉄道模型運転会なのですが、旧井上家住宅につきましては現在順調に整備しているのですが、この先整備終了まで約10年を想定しております。旧井上家住宅の整備が完了するまでの間、来訪者がどのような使われ方を望んでいるのかとか整備後の活用方法などの参考とするため、利用者のニーズを探るといった意味合いで、さまざまな事業を実施しているところです。以上です。

○豊島委員 ありがとうございます。白樺文学館は、ある程度の実績もありま

すが、旧井上家のほうは、どういうふうにやっていったらいいかというのは本当に大変です。でも、ああいうふうなものを何とか活用していきたいということは、みんな共通しているわけです。（２）の「鉄道模型運転会」というのは、こういうこともどんどんやっていって参加してもらえれば、こういうところがあるのだということを見てもらえるので、いいと思います。２０～３０人が集まって何かできるようなスペースがあればいいなと思っているのですけれども、ちょっと違うのであれですが、また我々も何とか活用したいと思っておりますので、出かけては活用できる方法を模索したいと思います。どうかひとつ、これからも活用に向けてよろしくお願いします。何とかみんなで力を合わせてやっていきたいと思っております。

○鈴木文化・スポーツ課長 鉄道模型運転会なのですけれども、これにつきましては印西の鉄道模型クラブに協力していただきました。土蔵内で開催したのですが、鉄道模型はお子さんにかなり人気がありまして、親子連れで多くの方が来館されまして、２日間で約４１８人が訪れました。そのうちの約３分１が旧井上家の建物や庭などをごらんになって帰っております。文化財に十分親しんでいただいたのかなと思っています。

○倉部教育長 ほかにいかがでしょうか。

○蒲田委員 １９ページの「１１月のてがたん」の部分ですが、これは意見になりますが、今回初めて「白樺派の見た我孫子の自然」ということで、白樺文学館の学芸員さんと鳥の博物館の学芸員さん、２人の専門家が一緒になって「てがたん」をするというので、私もお手伝いというか、参加させていただいたのですけれども、それぞれが専門を生かしながら、参加した方々が楽しめるということがありましたので、ジャンルは違うのですけれども、これから我孫子の中の博物館相当施設同士が一緒になって活動するということが何度もあると、参加した市民の方々も今までとは違うという切り口という部分もあって

楽しめるなと思いました。ジョイントするというのは、両方で打ち合わせをするのも大変なこともあるかと思いますが、これからも余り無理なく、でも市民の方に楽しんでいただけるように続けていただきたいと思います。ありがとうございます。

○鈴木鳥の博物館長 今、蒲田委員からお話があった件については、当日参加した学芸員のほうから、私もどんな感じだったのか伺っております。コースのポイントポイントで、白樺派のことや当時の時代背景を作品に描かれた我孫子の自然などのわかりやすい解説があったというところで、参加された皆さんに大変好評だったというふうに伺っております。委員がおっしゃるように、今後ともそういったところでコラボしていければいいなと感じております。以上です。

○倉部教育長 蒲田委員がおっしゃるとおり、我孫子の施設をつなぐというのは我孫子の魅力発信の大きなところですので、今、図書館と施設をつなぐとか、それぞれの施設のいいところがうまくつながっていると思いますので、ぜひこれらも進めていきたいと思っています。

ほかにいかがでしょうか。事務報告はよろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないものと認めます。事務報告に対する質疑を打ち切ります。

次に事務進行予定について質疑があれば、これを許します。

○豊島委員 指導課の3ページの2番以下の「我孫子市就学児合同引継会」ということで、我孫子駅周辺とか天王台駅周辺とか、その次のページに行くと成田線の沿線地区とか、こういうふうに行われております。もちろんそれぞれによって、参加する幼保、それから小学校の数が変わるわけでありましてけれども、この3つの引継会でダブるところももちろんあっていいのですけれども、全部これでカバーできているというふうに見てよろしいのでしょうか。

○羽場指導課長 お答えします。今おっしゃっていただいたように、小学校は

当然のようにいろいろなところにまたがってきますので、自分の学校に来るといってお子さんを中心に回っております。これが当面の予定なのですけれども、こういう形で、いつ、どこに行くかというタイムテーブルが配られておりました、その学校が、保育園、幼稚園の子供たちの様子を聞いてくるという形を合同で行うという取り組みになります。新たな取り組みでございますけれども、これをやった中で来年度以降継続する部分があるのか、また改善する部分があるのか、そういう部分では新たな取り組みで非常にいいかなと思っております。学校のほうがそこに行って情報が聞けるということで、幼稚園にしても保育園にしても非常に効率的な方法だと思います。

○豊島委員 そのように私も思います。これで意見が十分に伝わるかというのは、やってみないとわからないところがあるでしょうけれども、これからの我々の歩みの中でぜひ必要なことですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○倉部教育長 幼保小連絡協議会の中で、こういう形式にしようという話が出たのではないかと思いますけれども、ちょっとお願ひします。

○羽場指導課長 今までにはいろいろなところに行ってという形になりますが、当然のことながら、保育園とか幼稚園側もそのたびにということがあったと思うのですけれども、それを1カ所にしてほしいということでした。これは他の地区でやっているものを参考に、意見を聞きながらこういう流れになっていったのですが、我孫子駅周辺地区、天王台駅周辺地区、成田線の沿線地区という形に分けて、所属している幼稚園、保育園の場所によってやっていますので、皆さんからの要望と、他のところでやっている状況を聞きながら、こういうことがありますよという意見をいただきながら始めるという形になります。

○倉部教育長 ありがとうございます。ほかに事務進行予定はいかがでしょうか。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないようですので、事務進行予定に対する質疑を打ち切ります。

次に教育事業全般について、質疑あるいは意見があればお願いいたします。

○豊島委員 教員の仕事をしている時間の長さということに対して、ちょっとお聞きしたいと思います。

今、私の手元に第4回定例会の一般質問要項があります。いろいろな議員さんの質問を拝見いたしました。前回か前々回か、かなり教員の就業時間等のこととか、そういうことに関してあったのですけれども、1回やったからなくったこともあるのですが、今回はほとんど消えております。それとは違う質問事項が出ているのですけれども、今もちろん市だけではなくて、県だけではなくて、文科省も取り込みながら、教員の仕事の時間の多さというのは、黙ってられないことになっているわけですよ。本当にすごいです。それでも先生方は真面目で、ここにも先生方たくさんいるわけで、よく御存じだと思いますけれども、先生方は授業も、それから部活動も、いろいろなことも全部やりたい。それはよくわかります。だけれども限られた体力と限られた時間の中でそれをやっていくというのは、やはり無理です。小中一貫もやるし、幼保小もあるし、それから先ほどのことの中でいろいろなこともまた一緒になってやっていかなきゃいけないこともある。たまたま私は今、教育委員としているわけですけれども、日本はそういうふうな動きになっているわけです。国で決まったからこうやるというだけではなくて、難しいのは百も承知です。お金がないことも知っています。でも知恵があるし、工夫もある。そういうところを使いながら、何とか先生方に、もう少し授業に対する準備、授業に対する予習、授業に集中する時間あるいは生徒の指導に対する時間、そういうものを確保していくような形を、我々教育委員会では考えなければいけないのではないかと思います。お金がないのはわかっています。お金のない中で、しかしやはり日本の、私らは我孫子のことしか考えられないわけですから、我孫子の教育をど

うするか。小学校の先生があれほど指導主事を招いて、勉強することに対して一生懸命学ぼうとしているわけです。だけれども、すればするほど時間はとられるわけです。中に入ってみれば、すぐわかる。もう少し授業ということに対して考えていく必要がある。

私らはすぐ行けないけれども、アメリカに行ってみればすぐわかる。アメリカの学校の先生方は、こんなことやっていません。もう少し授業も集中しています。ほかの国だってそうでしょう。そういうところは、もう少し全体的にみんなで、何とかならんかというふうにして、これは前回も言って、教育長にそののところがうまくまとめてもらって、済みませんと謝ったような形になったのですけれども、やはり私らは何かしないといけないなと思うのです。

じゃあどうするんだということですがけれども、教育OBの方々是我孫子にだってたくさんいます。まだ元気で頑張れる人はたくさんいます。市役所OBになった方だって、たくさんいます。そういう人の力をおかりして、そして何とかやっていくというふうなことを何か考える必要があるのではないのでしょうか。どこでもやったから我々もやるというのでは、ちょっとこれは遅い。そんな感じがします。ちょっと偉そうに感じるかもしれませんが、私自身も教員を養成しているのですが、なりたがらないのです。だって忙しいのだもの。土曜も日曜もないのだもの。結婚したって子供を育てられない。だったら土曜・日曜がある一般企業の、かなりお金のいいところに決まってしまうのです。どんどん決まってしまうのです。それではだめなのではないかなと思うのですね。

そののころ考えて我孫子の教育、我孫子の学校をどうするというのを、皆さんはそういう意味ではベテランですので、私のことなんかぶっ飛ばすくらい、こうやるんだというふうにおっしゃっていただければなと思います。意見としてとどめるのであれば、それはそれで結構です。以上です。

○倉部教育長 ありがとうございます。毎回、豊島委員からの強い思い、学校の先生たちの多忙化を何とかしたいという思いをおっしゃっていただいています。ただ、そういう思いがすぐに解決できるような内容ではないことも、おっしゃっている豊島委員も十分わかっていただいていると思いますし、ではどうしたらいいかという解決方法がなかなか見当たらない。ほかの国との比較は確かにできますけれども、その環境がそのまますぐにできるかという単純な問題ではないということも、それぞれわかった上でだと思っています。

ただ、そういうことと比較しながら直していかなければ直らないのではないかと、そういう御心配の中の言葉をいただいているということはちゃんと受けとめなければいけないと思いますし、それぞれの中で考えていかなければいけない問題かなと思っています。教員の意識だけで変わるものだったならば、もっと早く変わるのかもしれませんが、残念ながら教員への期待に対する周りの環境が、ほかの国と日本では余りにも違い過ぎるのではないかなというふうに私は常に思っています。その期待にも応えようと先生たちが頑張るからこそ、自分たちを追い込んでいってしまう。それをだめとは言えない。今まではそれをよしとしていたものが、どうやら限界を超えてしまって、なかなか周りの期待に応えづらくなってきているというのが、今学校現場が抱えている一番のつらいところなのではないかなというふうに思っています。その中で私たちも、先生たちはそこまでやらなくていいよ、もっと周りの人たちが手伝ってくれるところがあるのではないかと、あるいは積極的に周りに地域の人たちが、そういうものをカバーしてくれるような環境をつくっていかなければならない。それによって初めて学力あるいは子供たちに接する時間に集中できる、そういうものを少しずつでもつくっていかなければというところで思いは同じだと思います。

ただ、その思いを形にするためには、やはり人とお金がかかる。現状の人

数の中では、子供の数が減るという単純な計算で先生たちの数も減らされているのが現状ですから、そうではないというところを幾ら言っても、残念なことに国のレベルでそれは認められていない。ということは、それをカバーするためには、市町村レベルでプラスにしなければいけないというつらさがある。我孫子市でも学習支援員だとか市の中で手当てできる人については、できる限りやっていると思っています。ある部分については、ほかの市よりも。ただし、ある部分においては、ほかの市に劣るという部分がある。それをどういうふうにして実現していくかというのは、ここの中でのいろいろな協議、課題の共有の必要性だと思っていますので、すぐに答えは、またまた申しわけありません。まとめというふうになってしまって申しわけないのですけれども、常に共有の課題として認識して、それを何とか変えていきたいという思いは引き続き持っていきたいなと思っています。

ほかに御意見があれば。それにプラスする御意見をいただきたいなと思えますけれども、よろしいですか。

この件についてはすぐに結論は出ませんが、1つずつ細かい内容について解決できる内容を検討していきたいなと思っています。できる限り予算の中でも要求はさせていただいているのですけれども、ほかとの比較の中で、優先順位がどうなのかというところでの争いになってしまいますので、それは引き続き頑張るとして、学校現場のほうを見守っていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

この件について、ほかに御意見がなければ。また別の件でも結構ですけれども、ほかに御意見がございますか。——よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○倉部教育長 ないようですので、以上で諸報告に対する質疑を打ち切ります。

○倉部教育長 以上で平成29年第12回定例教育委員会を終了します。お疲れさまでした。

午後2時56分閉会